

森の健康診断の概要

森の健康診断とは

健康な人工林は、様々な公益的な働きを有していますが、手入れが遅れると、森の地面(林床)に光が差し込まないため下草が育たず、大雨が降ったときには土壌が流出したり、土砂崩れなどが危惧される不健康な森になってしまいます。

そこで、京都モデルフォレストの理念のもと、府民みんなで森林を守る「森林利用保全重点区域」において、今回は、実際に府民の方々を中心に調査していただき、人工林の現状や課題を多くの皆さんに知っていただく機会とするものです。



↑健康な人工林
適度に間伐がなされ、下草が覆い茂ることで土壌の流出を防いでいます。

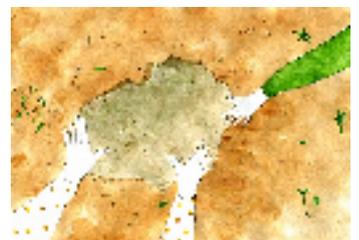
森の健康診断の手順

①植生調査

調査地の中で中心になる木を決めて、5m×5mの枠を作り、その中の林床の状況や方位等を調査します。これは、人工林の豊かさの調査です。



中心木を中心に枠を作る



落ち葉や腐植層の状況調査

②混み具合調査

中心になる木から長さ5.65mの釣り竿を使って円を描き、その中にある木の胸高直径(1.3mの高さの直径)や平均的な木の樹高を調査します。



枯損木や侵入竹の確認



中心木を中心に円を描く

③取りまとめ等

調査は6～7名の班に分かれて行います。調査の結果を班ごとに取りまとめて、調査で感じたことも含め、報告をします。

参考文献
1)森の健康診断
100円グッズで始める市民と研究者の愉快的な森林調査
蔵治光一郎+洲崎燈子*丹羽健司[編]
2)森の健康診断ポータルサイト&web-GIS
<http://mori-gis.org/>